

はじめに

1974年度における当研究所の事業の概要について、研究調査活動を主体としてここに公表する。

この年度においては、従来から継続して來た美術工芸・建築・歴史の3研究室および平城宮跡・飛鳥藤原宮跡の両発掘調査部の調査研究が着実に進められるとともに、新たな事業が課せられることとなった。

一つは埋蔵文化財センターの設置であり、現下の急務である埋蔵文化財の保護対策の重要な一環として、これに関する調査研究、地方公共団体への専門的技術的指導助言および担当職員の研修等を行なうための機関として設置されたのである。第二は飛鳥資料館の開館であり、飛鳥地域の保存に関する1970年の閣議決定にもとづき1974年度に設置され、鋭意準備を進めて來たが、1975年3月15日、その開館を見るに至ったのである。両者とも当初は文化庁附属の独立機関として構想されたが、種々の経緯から当研究所の部局として設置されることとなったものである。またこの年度には庶務部の制が置かれた。

このように当研究所は組織が著しく拡充し、業務も多岐に亘るに至ったが、各部局が有機的に一体となり、建所の精神に則り、学術の進展に呼応しつつ、所員一同業務に励んでいる。年報刊行に當り、各方面の一層の御協力を願いする。

1976年3月

奈良国立文化財研究所長

小川修三